

「永山まちづくり推進協議会」会議録（令和5年度第3回）

- 日 時 令和6年3月13日（水） 午後6時～午後7時15分
- 場 所 永山公民館 2階 講堂
- 出席者 ・委員15名（50音順）（欠席者5名）
上野委員，葛西委員，紙谷委員，北村委員，工藤委員，桑島委員，
塩尻委員，杉山委員，高橋委員，滝澤委員，土田委員，豊島委員，
宮腰委員，村井委員，山川委員
・事務局職員4名
永山支所長，同副支所長，同市民係主査，永山公民館長
・市民生活部長，市民生活部地域活動推進課2名

○会議の公開・非公開 公開

○傍聴者の数 なし

○会議資料

- ・会議次第
- ・令和5年度永山まちづくり実行委員会の事業報告及び決算
- ・令和6年度地域活動計画（案）

※当会議録中では，次のとおり表記する。

- ・永山まちづくり推進協議会を「協議会」という。

1 開 会

2 会長あいさつ

第3回の協議会の開催にあたり，会長からあいさつがあった。

3 意見交換

事務局から「地域まちづくり組織の在り方について」資料に基づき説明があった。

委員からの発言の主なものは次のとおり。

（委員）

それぞれの団体を束ねて，それぞれの活動の交流をすることによって活性化させるということだと思うが，その団体のコーディネーター役は誰が担うのか。活動するときにはコーディネーター役がすごく大事で，市の役割はそこだと思っている。デメリットは事務的な負担のところだけ述べられているが，そうではなく，行政が地域に入ることによって地域の課題や役割が見えてきて，そしてそれを行政やそれぞれの団体に投げかける，それが行政の役割だと思う。もしそこが途切れてしまった時に，生の情報や関わりをどうやって得られるのか。そのメリットを大事にして欲しいと感じた。

（委員）

基本的に今は個々に分離されてると思う。まち協自体がある程度形になった時に，次の段階に移って行く時にその受け皿が市民委員会なのか社協なのかどこなのかというのははっ

きりしてないので、その後の活動がちょっと見えてこないところがある。ただ、これは地域全体で活動するために必要なものは、まち協の中に残していく面も出てくるのではないかなと思われる。どうしても地域に落としていけない部分も出てくるのではないかと思う。単独でやるのはなかなか難しいこともあるのでは。

(委員)

市の方からやらされてる感じはあまりしていない。永山では、当初から自分たちが住んでる永山をどうしたらいいか、自分たちの夢、そういうものをこうなったらいいねという発想からいろいろ出てきていると思う。例えば永山駅をL特急の始発駅にしたい、永山の国道39号線に電車を走らせようとか、そういう突飛もないアイデアが今まで皆さんの話の中に出てきて、永山に名物を皆さんで作ったという経緯もある。そういう発想の中で今までいろんなことをやってきて、各地域や団体の方の協力を得ながらやってきたと思うので、本当にやりやすいということが一番感じている。今の中ではあまり変える必要がないと私は思う。

4 議 事

(1)(2)について、事務局から資料の説明があったのち、それぞれの実行委員会の事業実施報告や来年度の事業計画について報告や説明があった。委員や事務局の主な発言は次のとおり。

(委員)

冬みち守り隊は平成27年度から各地域、特に市民委員会を中心に冬の生活を守るということで始めた事業。今年については住民説明会とパトロールをやった。地域の除雪の悪いところや交差点の見通しの悪いところ、通学路などを除雪センター長と一緒に回り、悪いところには必ず1日ないし2日で改善してもらうため、かなり成果が上がった。市民委員会などでパトロールをやるところも増えてきたのでまち協からは卒業し、今後は第三市民委員会を中心にやっていきたいと思っている。

(委員)

永山第三SOSネットワーク事業についてもようやく基本的な形ができ上がり、LINEでボランティアの方に連絡してすぐ探せるよう考えている。現在ボランティアの登録は50名くらいになり、これからも増えていくと思う。

(委員)

地域のオタスケマン事業は、5月29日に永山西小学校でボランティアと防犯、交通について授業をした。3年生皆さんは真剣に聞き、質問もあって良かったと思っている。町内会の加入率が悪いことで問題になっているが、子供の時から町内会やボランティアについて話をすることによって、子供たちに少しでも関心を持って欲しいと思ってやってる事業である。その後、3年生が自主的にボランティアをやりたいと言いだし地域のゴミ拾いを実施した。

(事務局)

永山地域文化保存・振興事業については、10月に永山文化協会主催の永山地区文化祭が

4年ぶりに永山公民館で開催され、作品の展示やお茶会などの催しがあり、その他の展示部門に実行委員会として資料館にある歴史資料の展示を行った。資料の選定や展示の説明を旭川市立大学の学生たちが行ったことで、郷土資料への挨拶や関心を高めてもらうきっかけとなった。今後は旭川市立大学の学生が主体となって、来年度の文化祭においても歴史資料の展示を行いたい。

(事務局)

永山地区子どもの学習支援事業については、永山図書館の休館日である毎週月曜日午後3時から5時まで音楽室で開催した。旭川市立大学の学生がボランティアで児童や生徒の見守りも兼ねて学習支援を行っている。自習室が居場所となっている利用者もいることから、来年度も継続して今年度と同様に実施したいと考えており、ホームページやポスター、チラシなどで周知を図っていく予定。

(委員)

旭川市立大学の屯田まつり支援事業として、地域にある大学と連携を図りたいと昨年度から計画を立て、実際に大学のカリキュラムの中に地域の文化を学ぶ講座を作っていただき、この事業が大きく進んだ。市民委員会の女性部、大学生、その他関係者で踊りの練習と地域の方との交流を行い、まつり当日も学生や先生方含め多くの方に参加してもらってお祭りを盛り上げることができたと思っている。実際、若い人が伝統を継承することはやはり素晴らしいと喜びの声が上がっており、また、市民委員会でも若い人が入ってくれてとても活気があって良かったとの声があり、規模が縮小する中どうやって参加者を増やそうかと苦労していた中でこの事業ができたことはとても良かった。今年は大きく事業が動いたので、今後も継続しての中でやっていけたらいいと思っている。

(委員)

スープの冷めないきずなづくり事業は、地域や旭川市立短大の学生が共同で進めている。地域の包括支援センターで長い時間をかけて支援が必要な対象をピックアップし、そこに学生がスープを届けている。今年度は10月と2月の計2回実施し、学生が出向いていくと普段はチャイムを鳴らしても出てこられないような方が待ってましたと笑顔で出迎えてくださるなど反響は大きく、学生にとってもお話をすることで得られる達成感が大きい。そういうことが重なって、学生たちだけでなくボランティアの方や地域の連携や通い合うことでのつながりというのが感じられる。続けることによってボランティア団体の活動も活発になったり、地域の情報連携ができたりと、当然地域の課題も見えてくるのだろうが、すごく意味のある大事な事業だと思っている、まち協の事業にとどまらず続けていきたいものだと思っている。

(委員)

永山健康マイレージ事業は、介護予防も含め地域全体で自分の健康に関心を持っていただくということが大きな目的の一つで、運動には取り組むが大事な口腔や栄養への関心がとても低いということが分かった。今年度はクッキング教室と健康セミナーの実施、またたくさ

んの永山にある企業に協力いただきながらお口や健康，栄養チェックに取り組んでいただいた。マイレージへの応募は162名で，昨年より増えており，今回40歳から64歳の方の食生活を見直す機会になったという声も聞かれ，働き盛りの方の食生活に問題があることがわかるなど，課題があるということが分かった。先日次年度に向けての会議を行い，次年度はどういった形でやっていくか検討しているところである。

(委員)

高校生と高齢者の合同演奏会事業では，5月に音楽を中心として介護予防に努める地域のデイサービスの利用者と志峯高校の吹奏楽部の皆さんが合同で演奏会を開催した。入りきれない方が来られ，当日までに高齢者の方がいきいきと練習をする方や緊張すると言いながら発表することが生きがいになったという90歳を超える方もおり，本当に家族も含めて楽しかったという報告を受けている。

(委員)

きづな・ほのぼのバザーは認知症当事者や障がい者が店員となって，10月12日にしこばと会館で実施された。当事者の方にも来場者の方にも大変喜ばれ，無事成功という形でできたかなと思っており，1年後はまだはっきり決めていないが，実施できたらと考えている。

(委員)

ボランティア事業については，永嶺高校とどのように活動していけるか検討しており，ボランティアとして活動してもらえる生徒の人数を増やしたり，活動範囲を広げていけるように話を進めていたが，事故等の懸念もありなかなかその辺りがクリアできていない。今はマッチング作業を進め，必要としている人の除雪ボランティアを行っている。

(委員)

永山魅力発見隊は今回初めての実施だった。永山南小学校と西小学校に声がけし参加いただき，3人のグループ3つで回っていただいた。農業高校はちゃんと考えられた企画で，高校生の皆さんが本当に親切で気配りがよく，本当によくやってくださった。学校の先生も教え方もいいのではないかと思う。その後アンケートを取ったりいろいろ皆さんから御意見をいただいたが，夏休みの自由研究の課題で提出してくれた子もいて，いろんな人の目に触れたのではないかと思う。広報の表紙に載ったり，STVやケーブルテレビポテトに映像を撮っていただけたり，本当に子供たちが非常に喜んでい姿を見ることができてよかったと思う。永山にはまだまだいろんな魅力があるので，いいところを皆さんで見つけて，そしてそれを実際に自分たちで見て経験して，そういういい積み重ねをして将来もずっと永山に在住していただけたらと思う。今後も取り組んでいきたい。

5 閉 会

以 上